

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び…思考力・判断力・表現力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現…進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校…違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼…行きたい学校、行かせたい学校として地域から信頼される学校

2 中期的目標

- 1 自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成
 - (1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。
 - ア 自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。
 - イ「令和2年度学校経営推進費事業」により導入したプロジェクターに加え、「令和5年度導入電子黒板機能付きプロジェクター」など、ICT 機器・視聴覚機器の活用を推進し魅力ある授業をつくる。
 - ウ 新学習指導要領や高大接続改革の主旨に則り、多様な「学校設定科目」の開設などにより総合学科の強みを生かした教育課程の編成をおこなう。
 - ※ 学校教育自己診断生徒アンケート「興味関心を持って取組むことができる授業が多い」(R3：71%、R4：66%、R5：72%)を令和8年度には75%以上にする。
 - (2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組みを実施する。
 - ア 探究的、体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
 - イ 補習や講習、進路ガイダンス等の充実により、満足する進路が実現できることをめざす。
 - ウ 家庭学習（授業外学習）に取組む力の育成を図る。
 - エ 英検、漢検などの資格取得を積極的に推進する。
 - ※ 学校教育自己診断生徒アンケート「自分が決めた進路に満足」(R3：85%、R4：92%、R5：92%)を令和8年度には95%以上にする。
 - ※ 国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上
 - 関関同立の現役合格者(R3：25名、R4：30名、R5：42名)を30名以上、産近甲龍および四女子大(京都女子、同志社女子、武庫川女子、神戸女学院)合格者(R3：124名、R4：126名、R5：99名)を令和8年度は100名以上を維持する。
- 2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動、社会に開かれた教育課程の実践
 - (1) 学校行事や部活動を通じて主体性、協同性、コミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。
 - ア 共生推進教室の生徒をはじめ、多様な生徒たちが同じ空間で生活し、互いを理解し、互いに高めあう、インクルーシブな教育を推進する。
 - イ 学校行事や部活動を生徒主体で運営することにより、自ら課題を発見し協働しながら解決していく力を育む。
 - (2) ボランティア活動・地域交流への取組みを促し自己肯定感を育む。
 - (3) 大学・専門学校・小中学校・こども園などとの異校種間の連携を進め、学びを深める。
 - (4) SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。
- 3 安全で安心な学校づくり
 - (1) 教職員が一枚岩となった生徒指導により、授業規律の確立、挨拶の励行、規範意識の醸成等をおこない、落ち着いた学校づくりを進める。
 - (2) 校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。
 - (3) 教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取組み、中学校との連携を深め、生徒情報を入学前から早期に収集し、安心して学校生活が送れる環境を整える。
 - (4) 人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切にする学校づくりを進める。
- 4 学校の組織力向上及び学校の魅力の発信
 - (1) 学校の教育目標を共有し、チームとして学校の教育活動に取組む組織作りを行う。
 - ア PDCA サイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
 - イ 研修の成果を共有し、教育課題及び Good Practice（学校改革に向けた他校の素晴らしい取組み）への理解を深める。
 - ウ 教職員の働き方改革に取組み、教職員一人ひとりの意識改革を推進しながら、時間外在校等時間数の削減に努める。
 - (2) 学校の魅力の発信
 - ア 学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取組む。
 - イ 学校 Web ページ、ブログ、学校公式 SNS、広報資料等を活用して、学校の活動及び魅力が鮮明に伝わるように創意工夫、情報更新を行う。
 - ※ 学校説明会での中学生満足度 (R3：93%、R4：92%、R5：91%)を令和8年度も90%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<学校生活> 「1. 学校へ行くのが楽しい」生徒87%・保護者81%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」生徒96%・保護者91%、生徒「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」91%、保護者「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」79%、生徒「15. 学校行事は楽しい」91%、「16. いじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる」生徒85%・保護者80%の肯定的回答があり、生徒は安心して学校生活を送っており、保護者も同様に感じていると思われる。 <学習面> 「4. 興味関心を持って取り組むことができる授業が多い」82%、「5. 実験・観察・実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある」84%、「7. 自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」91%、「11. 興味・関心、適正・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」95%、「30. 視覚器材やコンピューターなどを使う授業が多い」92%、「33. 1人1台端末を効果的に活用している」91%の肯定的回答があり、教職員の創意工夫により探究的・体験的な学びおよび個別最適な学びの提供ができている。	第1回 6月13日 ・充実した活動が行われている。 ・教員の働き方改革の取り組み。(教員の負担軽減の取り組み) ・高校と地域の連携の在り方について考えていかなければならない。 第2回 11月20日 ・子ども達が学校行事を楽しんでいる様子がよくわかる。 ・高校生にどのようにして防災を伝えていくのかも大切である。 ・選挙と SNS の関係。 第3回 2月5日 ・授業外での家庭学習時間の確保については、何らかの仕掛けが必要。 ・良い学校だと思うが、特色があるかといわれるとやや弱いと感じる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 自らの進路を切り開くことのできる 確かな学力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業 ア 授業研究委員会、を軸とした組織的な授業改善	(1) ア・授業研究委員会を中心にして生徒 1 人 1 台端末を活用した授業研究並びに評価方法の検討を行う。 ・総合学科の特色である少人数授業を通し、主体的・対話的で深い学び、思考力や課題解決能力の育成に向けた授業改善をおこなう。	(1) ア・教員学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。」80%以上を維持[82%] ・教員学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。」80%以上[74%]	ア・学校教育自己診断（教職員）「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善を行っている」87%で5ポイント増。（○）研修等を実施して上昇をめざす。 ・学校教育自己診断（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」75%で1ポイント増。授業研究委員会で検討し、教科単位での研修を促進させる。（△）
	イ ICT 活用委員会を軸とした組織的な授業改革	イ・新型プロジェクター導入に合わせて ICT 機器を活用した視覚的なアプローチを通したわかり易い授業作りをテーマに研修を行う。	イ・教員学校教育自己診断「情報機器を教科の授業で活用している。」80%以上[79%]	イ・学校教育自己診断（教職員）「情報機器を教科の授業で活用している」85%で6ポイント増。（○）
	(2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組み ア 青雲道場の実施、生活習慣および学習習慣の定着	(2) ア・青雲道場（補習や講習、勉強合宿、大勉強会、自習室など）を実施する。	(2) ア・生徒学校教育自己診断「自習室・HR 教室で自習する」55%以上[53%]	ア・学校教育自己診断（生徒）「自習室・HR 教室で自習する」58%で5ポイント増。引き続き進路実現への動機付けを検討する。（○）
	イ 部活動との両立	イ・文武両道の学校創りに向け、部活動を通じて部活動と学習の両立を常に意識させる。	イ・生徒学校教育自己診断「勉強と部活動の両立」70%以上[73%] ・生徒学校教育自己診断「家庭学習（授業外学習）1 時間以上」45%以上[44%]	イ・学校教育自己診断（生徒）「勉強と部活動の両立」72%で1ポイント減。文武両道の意識付けを継続する。（○） ・学校教育自己診断（生徒）「家庭学習（授業外学習）1 時間以上」50%で6ポイント増。（○）
2 学びを深める教育活動、社会に関わられた教育課程の実践 自己尊敬感情、自己肯定感や探究心を育み、	(1) 人間関係力の育成を図る ア 部活動	(1) ア・部活動説明会や仮入部制度の見直しなどにより部活動加入率を上げ、人間関係を築く力を育てる。	(1) ア・部活動加入率：80%以上[75%]	ア・部活動加入率：79%（○）
	イ 学校行事	イ・学校行事において、主体性の育成を重点におきながら、生徒の満足度を高める。	イ・生徒学校教育自己診断「行事が楽しい」90%以上を維持[90%]	イ・学校教育自己診断（生徒）「行事が楽しい」91%で1ポイント増。今後も生徒の主体性を重視する。（○）
	ウ コミュニケーション力の育成	ウ・授業等を通じて、自らの考えをまとめたり、わかり易く伝えたりする力を育成する。	ウ・生徒学校教育自己診断「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」80%上維持[86%]	ウ・学校教育自己診断（生徒）「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」91%で5ポイント増。（○）
	(2) 自己肯定感の育み ア ボランティア活動・地域交流・高大連携	(2) ア・部活動および個人参加も含め、ボランティア活動への参加や地元小中学校や大学との連携事業、さらに地域行事等における交流を積極的に推進する。	(2) ア・ボランティア活動参加生徒 100 名以上を維持[179 名] ・部活動を通じた中学校や地域等との交流 50 回以上[68 回] ・大学、専門学校等からの出前授業とともに、小中学校、こども園などへの出前授業を 15 団体以上維持 [26 団体]	ア・ボランティア活動参加生徒：168 名（○） ・部活動を通じた中学校や地域等との交流回数：60 回（○） ・行政機関、大学、専門学校、企業等団体からの出前授業。本校の生徒、教員がこども園を訪問し、楽器演奏や読み聞かせ、植物採集を実施。教員が の中学校での出前授業を行った。16 団体（○）
	(3) 国際交流の推進 ア SDGs の視点を踏まえた国際交流	(3) ア・国際交流企画として外国人留学生との交流や Web 会議システムを用いた海外の学生との交流を通して国際理解教育を推進する。	(3) ア・対面あるいは Web 会議システムを用いた交流等を 3 回以上実施する [3 回]	ア・Web 会議システムを用いて交流を実施。 ・留学生とのスポーツ交流を実施。3 回（○）
3 安全で安心な学校づくり	(1) 生徒指導、遅刻指導、仲間づくり、過ごしやすい学習環境 ア 生徒指導・遅刻指導・挨拶の励行	(1) ア・学年団と生徒指導部が中心となり、朝の立ち番や担任による個別指導など	(1) ア・遅刻者数を 10%減[13%減]	ア・遅刻者数：1 %減（△）

府立千里青雲高等学校

	を通して学校全体で遅刻数の減少を図る。 ・挨拶習慣醸成のため、教員から生徒への挨拶を励行する。 ・教員間で生徒対応への意識を再確認し、生徒の内面に切り込む説得と納得を軸とした生徒指導を構築する。 イ 生徒間の信頼関係 ウ 学習環境の整備 (2) 教育相談体制の充実 ア 学校全体での取り組み (3) 人権教育の充実 ア 人権研修	を通して学校全体で遅刻数の減少を図る。 ・挨拶習慣醸成のため、教員から生徒への挨拶を励行する。 ・教員間で生徒対応への意識を再確認し、生徒の内面に切り込む説得と納得を軸とした生徒指導を構築する。 イ・1年次生で仲間づくり研修を実施して生徒間の信頼関係の構築を図る。 ウ・校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。 (2) ア・ケース会議を可能な限り開催し職員会議の機会を利用して生徒情報の共有化を図り、学校全体で取組む。 ・中学校との連携を深め、生徒情報を早期に収集し、生徒指導の充実を図る。 (3) ア・教職員向け人権研修の内容及び方法を再検討し、教職員の人権意識を高める。 イ・保護者と人権課題を共有するための取組みをおこなう。	・生徒学校教育自己診断「先生の指導に納得」60%以上[61%] イ・生徒学校教育自己診断「信頼できる友だちがいる。」90%以上を維持[96%] ・生徒学校教育自己診断「クラスに話しやすい雰囲気がある。」80%以上を維持[89%] ウ・生徒学校教育自己診断「自分は学校で清掃をきちんと行っている。」90%以上を維持[95%] (2) ア・教員学校教育自己診断「生徒情報の共有化を図りチームで対応」85%以上を維持[88%] ・入学前に生徒情報を組織的に収集し、入学後の生徒指導に活用する。 (3) ア・教職員学校教育自己診断「人権課題に対して教職員で話し合っている。」70%以上[69%] イ・生徒・教員・保護者合同で人権研修を実施する。	・学校教育自己診断（生徒）「先生の指導に納得」63%で2ポイント増。引き続き、対話を大切にしたり粘り強い指導を続ける。(○) イ・学校教育自己診断（生徒）「信頼できる友達がいる」96%で増減なし(○) ・学校教育自己診断（生徒）「クラスに話しやすい雰囲気がある」91%で2ポイント増。(○) ウ・学校教育自己診断（生徒）「自分は学校で清掃をきちんと行っている」95%で増減なし。(○) ア・学校教育自己診断（教職員）「生徒情報の共有化を図りチームで対応」81%で7ポイント減。(△) ・入学前に収集した生徒情報をクラス編成等の生徒指導に大いに活用した。(○) ア・学校教育自己診断（教職員）「人権課題に対して教職員で話し合っている」63%で6ポイント減。(△) イ・教員、保護者合同の人権研修会を実施した。(○)
4 学校の魅力の発信 学校の組織力の向上及び	(1) チームとして学校の教育活動に取り組む組織作り ア・研修成果や教育課題の共有 ・教員集団のチームワーク向上 イ・働き方改革 ・会議の効率化 ・部活動顧問の負担軽減 ・全校一斉定時退庁の推進 (2) 学校の魅力の発信 ア 学校説明会 イ 学校Web ページ・ブログ・広報資料	(1) ア・研修の成果や教育課題、Good Practice を共有する機会やミーティングを設け、話題にすることにより、チームとして教育活動に取り組む組織をめざす。 イ・「会議の開始時間を遵守する」を組織の統一指針とし、効率的な進行に向けた工夫を推進する。 ・様々な取組みを通して、全教員の超過勤務時間を減少させる。 (2) ア・教職員及び生徒がともに、学校の魅力づくりを意識して行動する。学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。 イ・学校 Web ページ、ブログ、SNS、広報資料をこまめに更新、投稿して、学校の活動及び魅力を鮮明に伝える。	(1) ア・教員学校教育自己診断「研修報告の成果の共有」80%以上[74%] ・教員学校教育自己診断「教育活動について、日常的に話し合っている。」85%以上[84%] イ・教員学校教育自己診断「各種会議が効率的に行なわれるよう工夫されている。」70%以上[69%] ・部活動顧問業務量の平準化推進や一斉定時退庁を徹底し、時間外勤務の全教員の平均 40 h 未満 [41 h] (2) ア・学校説明会に参加した中学生対象に実施するアンケートの満足度 90%以上を維持[91%] イ・ブログ（図書、学年、部活動、青雲道場、校長）の更新や学校公式 SNS の投稿を 600 回以上維持[913 回]	ア・学校教育自己診断（教職員）「研修報告の成果の共有」80%で6ポイント増。(○) ・学校教育自己診断（教職員）「教育活動について、日常的に話し合っている」83%で1ポイント減。分掌会議等の開催日の固定など改善策を検討する。(△) イ・学校教育自己診断（教職員）「各種会議が効率的に行われるように工夫されている」69%で増減なし。(△) ・37.24h (○) ア・学校説明会に参加した中学生の満足度：91% (○) イ・ブログの更新回数、学校公式 SNS の投稿回数：753 回 (△)